

父親の育児参加と家計の時間配分

お茶の水女子大学 COE 研究員

水落 正明

要旨

父親の育児参加に関する研究は、これまで社会学や人口学を中心に進められてきた。そこでの残された課題は、(1) 父親の育児参加の規定要因として、父母の就業状態と家族の属性変数が同時に外生変数として用いられていること、(2) 父親の通勤時間の影響が明らかになっていないこと、の2点である。

本稿の分析結果から以下の知見が得られた。

(1) 父親の育児参加の規定要因について推定する際、父親の就業状態を家族の属性変数とともに外生変数として説明変数に用いてもほぼ問題ないが、母親の就業状態に関しては妥当ではない。

(2) 父親の通勤時間の長さは、共働き世帯でのみ父親の育児参加を減少させることが確認されたほか、共働き世帯では、父親の労働時間よりも通勤時間のほうが父親の育児参加に与える影響が大きい。